

特集

〈事例〉

行政や経済団体と一丸となり 少子高齢化の課題に取り組む

公益社団法人
秋田県シルバー人材センター連合会

(秋田県)

秋田県SC連合会では、平成28年に秋田商工会議所の会員になり、商工会議所のセミナーなどでセンター事業の普及に努めている。また、令和2年度から厚生労働省の「生涯現役促進地域連携事業」を展開しており、高齢者や事業主を支援するセミナーや就職面接会、調査事業などを実施している。全国で最も高齢化が進む秋田県の課題解決に向け、行政や経済団体と一丸となって取り組んでいる。

経済団体との連携 経緯と現在の考え方

秋田県SC連合会（以下、連合会）は、平成二十八年十一月に秋田商工会議所に入会した。以来、商工会議所主催のセミナーなどでシルバー人材センターの情報を提供する機会に恵まれている。

平成三十年には、県内の四経済団体（経営者協会、商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会）と連携し、シルバー人材センター連合が行う労働者派遣事業（以下、シルバー派遣事業）における、就労時間の上限拡大を県知事に要請する活動を実施した。これらを経て、少子高齢化が著

しい同県においては元氣な高齢者の活躍が不可欠との考え方から、行政や関係機関、経済団体からなる「秋田県生涯現役促進協議会」を令和二年度に創設。事業構想が厚生労働省の「生涯現役促進地域連携事業」に採択され、連合会が同協議会の主体者となり、令和二年度から三年間、高齢者が元氣で活躍できる機会創出に向けて、技

能講習や生涯現役総合フェアの開催など多様な事業を実施している。経済団体等との連携について、連合会の茂木重雄専務理事兼事務局長は次のように語る。

「秋田県の高齢化率は全国で最も高く、三八・五％（令和三年七月一日現在）となっています。今



秋田県SC連合会の茂木重雄専務理事兼事務局長

後も上昇し、人手不足や地域経済の持続的な発展が危惧されています。元氣な高齢者の活躍が求められる中、この課題はシルバー人材センターだけでは解決できません。また、自治体や経済団体だけではなく、地域の関係機関が一丸となって行動することが重要です。連

秋田県SC連合会では、「秋田県生涯現役促進協議会」の主体者となり、令和二年度から「生涯現役促進地域連携事業」に取り組んでいる。写真は、令和三年度に実施した技能講習。秋田市で開催した「介護送迎運転技能講習」(写真上) 湯沢市で行った「緑地保全従事者講習」(写真下)



合会も地域の一員として課題に真剣に向き合い、解決に向けてできることに取り組むことが大事。そうした考えが、現在の連携の根底にあります」。

具体的な連携活動

●秋田商工会議所に入会

平成二十八年十一月、連合会は

秋田商工会議所に入会した。

これにより、商工会議所主催のセミナーや集まりなどでセンター事業の紹介ができると考えた。実際、商工会議所加入企業の五十五歳以上の従業員を対象とした定年後に向けたセミナーが毎年開催されており、ハローワークの職員や関係者と共に講師として参加。シ

ルバー人材センターでの働き方などを説明している。直近では令和四年一月に開催され、二十六人の受講者に説明した。

このほか、所属する専門サービス部会で講師を依頼されたこともある。

講師を務めた茂木事務局長は、

「シルバー人材センターの名称は知っていても、仕組みや請負・派遣の働き方のこと、現状としてどのような仕事を受注しているのかまではあまり知られていません。現在のセンターの姿を、データや資料を示して伝えました」と話す。

また、連合会の取り組みについて、商工会議所の会報やメールマガジンで紹介している。

●経済団体と共に、シルバー派遣事業の就労時間の拡大を知事に

要請

県内では、仙北市SCがシルバー派遣事業に係る特区の認定を受け、週四十時間まで就労が可能になっている。シルバー派遣事業に

ついては、他地域の事業所等の一部から就労時間拡大を求める声があり、連合会ではこの認定を県全体で推進するため、県内経済団体と連名で平成三十年十二月、県知事に要請。平成三十一年三月に認定を受け、県内全域で拡大が可能となった。

週四十時間まで拡大する事例はほぼないが、一日一、二時間の拡大はいくつかあり、現在では発注先から派遣会員の就労時間拡大を求める声には対応できている。

少子高齢化の課題解決へ 関係団体と協議会を創設

高齢化率の上昇と労働力人口の減少で、人手不足が深刻な状況にある秋田県では、人口の四割近くを占める高齢者の活躍の場を広げ、就業や社会参加の促進を図ることが不可欠とされている。

そこで、従来の政策や対策に加えて、地域の関係機関が一体となって問題意識を共有し、協力・連

携体制の強化を図って、課題解決を目指すため、「秋田県生涯現役促進協議会（以下、協議会）」を令和二年度に創設した。

構成団体は、連合会をはじめ、

秋田県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構秋田支部、秋田県商工会議所連合会、秋田県商工会連合会、日本労働組合総連合会秋田県連合会、社会福祉法人秋田県社会福祉協議会。

協議会で策定した事業構想「高齢者雇用・就業促進事業」誰もが元気で活躍できる健康長寿あぎたの実現を目指して」が厚生労働省の生涯現役促進地域連携事業に選ばれ、展開中である。

生涯現役促進地域連携事業の実施状況

〈実施期間〉

令和二年五月～令和五年三月

〈実施内容〉

慢性的な人手不足分野で、かつ高齢者に適した業務の切り出し

等の可能性が見込まれる四業種（医療・福祉分野、卸・小売業、製造業、農業）を重点業種に設定し、重点的に高齢者の就業機会の確保を図る

〈主な事業内容〉

「高齢者の就業及び雇用に関する実態調査（アンケート）」の実施、Webサイトの開設による情報提供、雇用拡大・就業促進・健康づくりに関するフェアの開催、市町村等と連携した就業支援など

令和二・三年度の実施状況は、以下の通り。

【地域連携ネットワークメニュー】

①技能講習の実施

●令和二年度：四科目五講習（福祉・家事援助「安全な草刈作業」「刈払機及び剪定・整枝」「介護送迎運転技能Ⅰ」）を四市で開催。受講者は計六十八人

●令和三年度：三科目六講習（農業分野従事者講習Ⅰ」「農業分野

従事者講習Ⅱ」「緑地保全従事者講習」「介護送迎運転技能講習Ⅰ」

「介護送迎運転技能講習Ⅱ」「介護送迎運転技能講習Ⅲ」を二市二町で開催。受講者は計七十五人

②「高齢者の就業及び雇用に関する実態調査（アンケート）」

令和二年度に実施した。調査対象は、高齢者二千人（回答率四八・七％）、事業所千社（回答率六五・二％）

③生涯現役総合フェアの開催

内容は、就業関連コーナー、健康寿命日本一応援コーナー（健康チェック、健康・食生活啓発ほか）、著名人による講演会等

●令和二年度：十一月三日に秋田市で開催し、参加は百三十三人
●令和三年度：十一月二十一日に横手市で開催し、参加は百三十七人

④秋田県生涯現役促進協議会のWebサイトを開設・運営

令和二年九月一日に開設し、運用中

【高齢者支援メニュー】

①高齢者向けハンドブックの作成
「働きたいシニアのためのガイドブック」を令和二年度に千五百部作成し、各種団体に配布。

令和三年度は八百部を追加作成し、配布。同ガイドブックは、Webサイト上にも掲載

②セカンドライフセミナー

令和三年度は、八月六日に能代市で実施し、参加は十九人。九月九日に大仙市で実施し、参加は二十二二人

【事業主支援メニュー】

①シニア人材活用ハンドブックの作成

「シニア人材活用スタートブック」を令和二年度に千五百部作成し、各種団体に配付。令和三年度は八百部を追加作成し配布。同スタートブックは、Webサイト上にも掲載

②シニア人材活用セミナーの実施

令和三年度は、十一月十九日に北秋田市で実施し、参加は十三

人。十二月十七日に由利本荘市で実施し、参加は十四人

【マッチング支援メニュー（シニアア合同就職面接会）】

●令和二年度：十二月十八日に秋田市で開催し、参加は十四社・四十五人

●令和三年度：七月三十日に秋田市で開催し、参加は九社・二十七人。十二月七日は鹿角市で開催し、参加は十社・十三人。十二月九日は秋田市で開催し、参加は十一社・三十五人

高齢者の働き方の特徴をよく知る組織として

コロナ禍で中止したのもあったが、令和二・三年度の年度ごとの取り組み目標は達成できたという。フェアやセミナーの参加者へのアンケート調査では、「大変役に立った」「まあまあ役に立った」と回答する人が多かった。

茂木事務局長は、令和二年度に実施した「高齢者の就業及び雇用

に関する実態調査（アンケート）」について、「元気だが現在は働いておらず、求職活動もしていない人たちの考えも知りたいと思い、アンケートで調査を行いました。また、働きたい職種や働き方も尋ねており、今後に役立てられると考えています」と、有益な情報提供

が可能な調査ができた話です。また、「調査から見えてきた課題もあります。解決に向けて、どのような対策を講じていくのか。シルバー人材センターは大きな組織ではありませんが、センターがあることで助かっているという事業所や人々は各地域にたくさんいま

す。また、短期・短時間の仕事ならできるといふ高齢者の役に立っています。そうした組織として、地域にとつてどのような活動が有効かを考え、できることを行っていきたい」と続けた。

さらに、経済団体との連携について、「シルバー人材センターは、高齢者の働き方の特徴やメリットを把握し、デメリットをどうカバーするかなどについて、経験と多くの知識を持っています。例えば、企業の仕事の一部を切り出し、会員が担うことで従業員が専門的な作業に専念しやすくなる、早朝の仕事が得意な高齢者が多いなど、事業主が意外と気付いていないこともあるので積極的に提案していく。そういう視点で、これからも経済団体と連携・協力し、共に地域の課題に取り組んでいきたい。今は、皆で地域を支え合っているという考え方が大事なのだと思います」と、見解を示した。

（増山美智子）



令和三年十一月二十一日に横手市で開催した「生涯現役総合フェア」では、講演やディスカッションのほか、マッスルスーツ体験コーナー（写真上）も設けられた。令和三年七月三十日に秋田市で実施した「シニアア合同就職面接会」（写真下）